



松柏中学校アーカイブ通信 第30号 2024年12月24日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克  
(タイトルの背景は旧校舎)

## 松柏中学校応援団の歴史

先週、松柏中学校最後の応援団員が決まりました。3年生団員が引退し、2年生8名が30期、1年生10名が31期になります。3学期は各種壮行会は予定されていませんが、卒業式や閉校記念式典での出番が予想されます。昭和の時代にも松柏中学校に応援団があったのかもしれませんが、現在の応援団に直接つながる応援団の29年間の歩みと、若干の市内中学校の応援団の歴史について話を進めていきたいと思います。



【最後の松柏中学校応援団】

### 1 応援歌の誕生

(松中躍進を支えた先生の存在)

(現在の) 応援団結成よりも先に松柏中学校応援歌が生まれています。1991年のことです。

1991年といえば、文化発表会が文化祭に変更された年です。生徒主体の文化祭を目指したのは前年・1990年ですが、名実ともに文化祭になったのが1991年です。1991年は文化祭と応援歌の誕生という、松柏中学校にとって大きな動きがあった年といえます。生徒の思いを最大限に尊重し、実現に向けてサポートした教師の姿が思い浮かびます。

松柏中学校応援歌 作詞：中川富美香(1991年度卒)  
作曲：山本 祥三(1991年度卒)

- 1 勝利の翼 背に広げ  
はばたく我ら いまここに  
闘志を燃やせ いざゆかん  
松柏我らの スピリット
- 2 血と汗たぎる 練習に  
涙をこらえ がんばった  
今こそ自分に 打ち勝つぞ  
燃えろよ松柏 ビクトリー



当時の生徒会担当(特別活動担当)の先生です。教職員名簿を見て、思い浮かんだのが滝澤治先生です。(写真右)先日、当時松柏中学校に勤務されていたA先生に確認すると、文化祭の実現に関わられたのは滝澤先生で間違いのないことでした。

私事になりますが、滝澤先生は1993年に明浜東中に異動され、私は2年間一緒に仕事をしましたが、東中でも文化祭を立ち上げました。とにかくイベントが大好きな先生でした。松柏中学校の応援歌制作では、当時珍しかったアップルコンピューター(マッキントッシュ)を駆使したと聞いています。

### 2 応援団の誕生

「頑張ろうや松中」を生徒会スローガンに掲げ、「松柏中学校を元気にしたい。自分たちから声を出して、仲間を応援し、達成感や一体感を味わおう。」1996年度がスタートしてまもなく、若手教員の発案で松柏中学校応援団が発足しました。1996年5月28日のことです。翌29日の市内総体壮行会での応援には間に合いませんでしたが、6月19日に予定されていた市内陸上大会の壮行会を目指して練習を開始しました。



【1996年6月19日 当時の映像から】

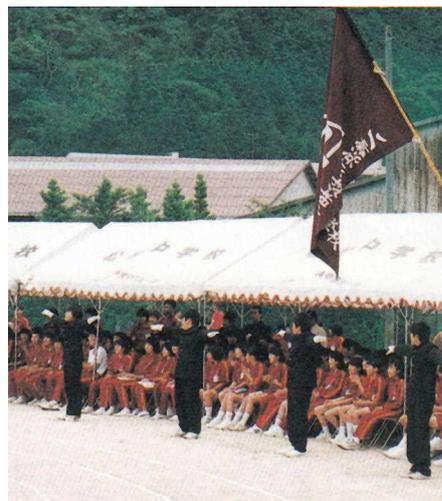
何をお手本に応援をすればいいのか、団員も教師も悩みました。数日後、泉正人先生(23歳)が愛媛大学応援団の、山村が千葉工業大学応援団の映像ビデオを入手し、参考にすることにしました。日曜日の午後集合をかけ、厳しい「特訓」が始まりました。応援の動作のパターンのことを専門用語で「テク」と言いますが、このとき採用したのが、千葉工大の「エンドレスエール」です。また、愛媛大応援団の演舞中、微動だにせず、高く掲げられた団旗の姿も採用です。こうして迎えた19日の壮行会の写真が右上です。副団長の兵頭宣彦君が腕をピシッと横に伸ばし、「エンドレスエール」を演じています。「ファイトー、ファイトー〇〇」を延々と繰り返します。なお、このテクは、現在の松柏中学校応援団で復活し、離任式のときに演じています。2021年3月の離任式、松柏中学校を離れる兵頭宣彦先生に向けて、応援団責任者の山村が「エンドレスエール」を送りました。

初代団長：菊池道隆 副団長：兵頭宣彦 担当教員：泉正人・山村好克

### 3 市内陸上大会で存在感を放つ

保内町と合併する以前、市内中学校陸上大会は八代中グラウンドで行っていましたが、トラック一周、ここには市内7校（当時）の応援生徒が集っていました。どの中学校も3年生だけの限定メンバーでの応援でした。ここに八代中は午後から全校生徒がそろい、迫力の応援を見せていました。（長い長い応援座席、リーダーが「八中生注目～」と叫んで走る姿の何とかこよかったことか。後に愛宕や松柏も全校生徒で乗り込むのですが。）

松柏中応援団デビューとなった1996年6月20日、「他校に負けたくない」という意気込みで八代中へ乗り込み、陣取りました。まず松柏中のひたすら高い校旗をかざしました。旗手長は競技中はずっとこの状態を保ちました。（右の写真は1999年のものですが、校旗の高さが分かると思います。）そして学年別で行われる1500mと総合3000mの長距離4本。「エンドレスエール」を通しました。閉会宣言が終わるとすぐに各校へのエールを送りました。この松中の応援スタイルは会場が保内中になり、応援団が乗り込めなくなるまで続きました。



### 4 市内3校の応援団（見送りやテクなど）

松柏中学校応援団のテクやスタイルが、大学の応援団をお手本にしたことを述べましたが、市内の中学校も経緯はほぼ同じです。日体大出身の体育の先生がいた中学校や高校は運動会で「エッサッサ」が披露されるのと同じです。私は松柏中の後、愛宕中に異動しましたが、当時の愛宕中応援団のテクにおもしろいメニューがありました。「愛宕中第二応援歌」なのですが、学生服を着たリーダーがステップを踏むのです。ユニークな踊りが、陸上大会では注目を浴びていました。これはずっと後になって分かったのですが、立命館大学第二応援歌が原曲です。もうお分かりだと思います。愛宕中に勤務されていた井上靖先生（当時）が導入されたのでしょうか。何しろ立命館大学応援団指導部団長でしたから。

【2001年の壮行会】

こうして、応援団を担当した先生のアイデアやこだわりからテクが生まれ、先生の異動に伴って、市内3校で同じような応援が行われるようになりました。東京六大学野球の応援で見られる「そうだコール」は愛宕中、八代中、松柏中どこにもありました。また、卒業式後の卒業生の見送りは、愛宕中なら旧正門前のロータリーで、八代中と松柏中は校舎中央の通路から出てきた卒業生を挟む形で応援を行っていました。

### 5 そして再び松柏中へ（LAST 松柏）

愛宕中、双岩中、八代中、青石中と、それぞれで応援団に関わらせてもらいました。（双岩中時代は上岡浩人先生が「雷虎」と呼ばれるテクを使用されていました。）そして6年前、2度目の松柏中学校勤務になりました。山下教千賀先生が指導されていた松柏中応援団のテクは非常に新鮮でした。今も続いている「ひとつ」から始まるテクです。山下先生が松柏中を離れた後は、山村が応援団を担当してきました。この間、コロナ禍があり、マスクを着用しての壮行会や見送りなどがありましたが、29年目、31期まで応援団の活動が続いています。令和6年現在、各種壮行会などで応援団が本格的に活動しているのは市内では愛宕中と松柏中の2校のようです。

先日あった最後の応援団結成の日、1年生は「ずっと姉の卒業式のときから見ていて、カッコいいと憧れていました。」といった入団の動機を公表してくれました。「頑張っている人を応援することのすばらしさは最後まで大切にしたいですね。もう一つ、個人的にうれしい思いを。愛宕中以来、様々な大学応援団のテクを使用してきましたが、今年の離任式で披露した「松中勝利の歌」（原曲は「関学勝利の歌」・アニメ「エイトマン」）を今年度の3年生が運動会以降、使用してくれています。自分で演じた動画をアップしている生徒もいます。LAST松柏、応援団も最後の輝きを示したいです。（制服が学生服からブレザーに切り替わっている流れの中で、これから応援団はどうなるのかという思いはありますが。）

今年の「松柏中学校アーカイブ通信」は今号が最後です。1月からも、あともう少し情報を発信していきたいと考えています。「閉校記念誌」編集の段階で明らかになった松柏中学校の歴史、紙幅の関係で「記念誌」に盛り込むことができなかった情報などを紹介していきます。なお、30号までのバックナンバーは松柏中学校のホームページから検索できます。もしくは右のQRコードから入っていただけます。



「閉校記念誌」は、校内での最終点検を終えました。年明けから印刷に入ります。A4サイズ・236ページのボリュームです。